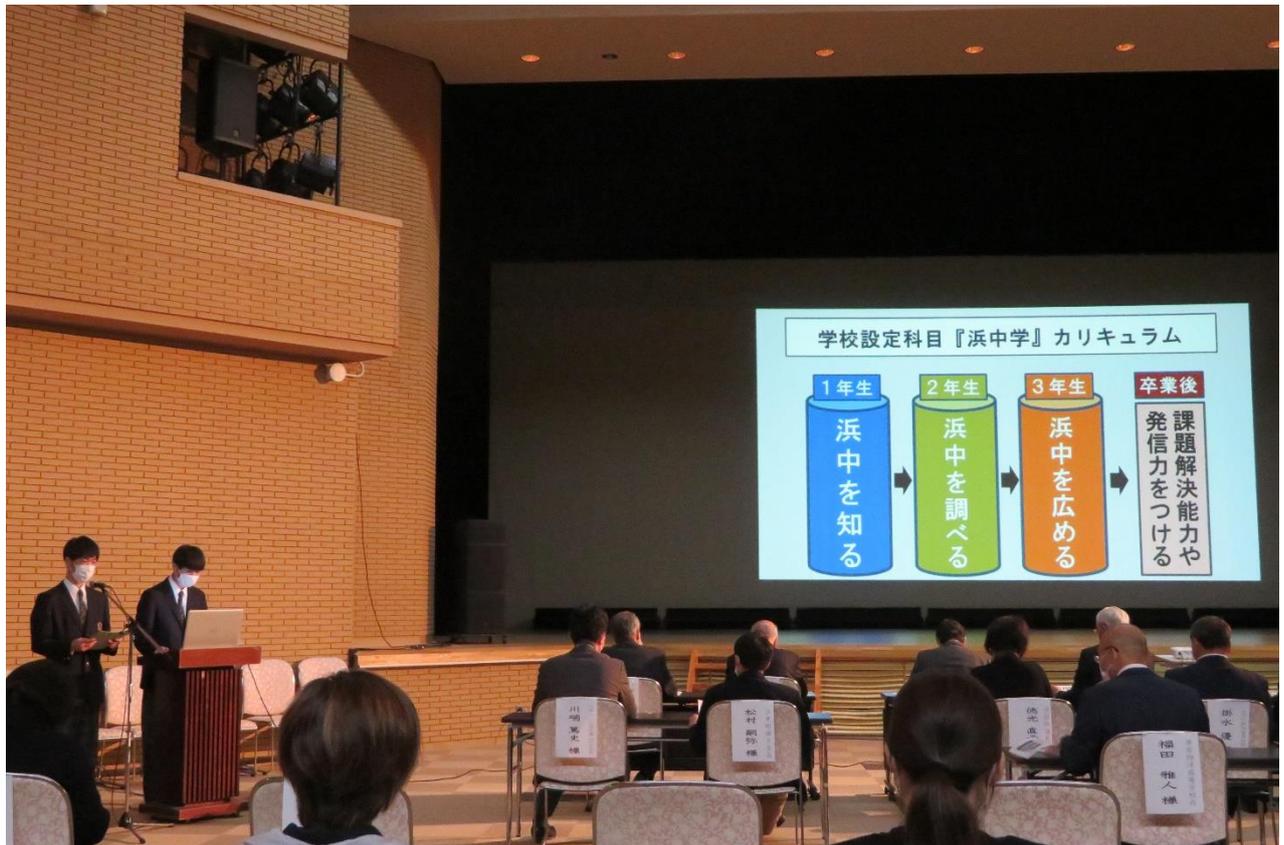




令和3年度

北海道霧多布高等学校

「浜中学」実践報告



【令和3年度 3年次 浜中学報告会 より】

■ 学校設定科目『浜中学』の目的とねらい

本校では、地域の歴史や文化・資源等について理科・社会科の選択科目や総合的な学習の時間で学習していたが、その成果をより高め、より深い学びを実現するため、教科縦断的・横断的な取り組みを進める学校設定教科・科目『浜中学』を平成25年度に開講した。

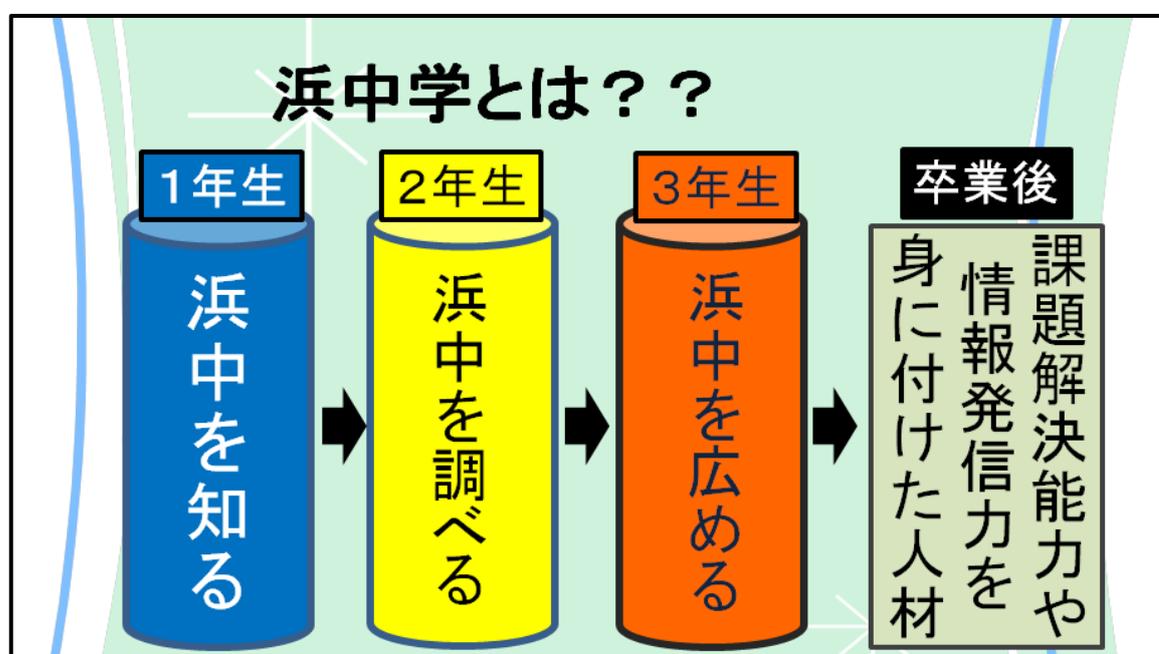
計画段階では、単に地域のことを学び直す郷土学習のイメージであったが、身近に感じられる地域の魅力や諸課題を題材として、生涯にわたり必要とされる学力の三要素を習得し、次代の地域社会を担う一員としての自覚と資質の育成を図ることをねらいとした。

各学年における習得の内容と学習のイメージは次のとおりである。

第1学年では、自分が住む郷土の環境や産業など浜中町の魅力を理解する。(基礎的な知識の習得)

第2学年では、第1学年で得た知識をもとに浜中町における課題を探求し、解決する方法を探る。
(基礎的な技能の習得)

第3学年では、浜中町の魅力や課題解決策等を発信したり、地域の研究成果をまとめたりする。
(情報発信能力の習得)



「浜中学」3年間の学習イメージ

■平成31年度入学生 『浜中学』 学習のまとめ

1年次 【浜中を知る】

1年次は、「自然環境」「漁業」「酪農」と大きく3つの内容に分けて、講話や体験活動、グループワークなどをおして、浜中町の魅力や各内容における現状について知る活動を行った。その後、2年次以降の「調べる」内容に向けて、1年次の学習で学んだことから、浜中町の課題についての現状を調査し発表する活動も行った。

4月 浜中町の魅力を発見しよう！

浜中町の自慢できる事・物からキャッチフレーズを考察したり、生徒たち自身で浜中町に関するクイズを作成し互いに解答し合うことで、私たち町民でも気付くことができなかった町の魅力の発見につながった。

5～6月 浜中町の自然について

霧多布湿原ナショナルトラストの瓜田勝也様をお招きし、環境保全地域である霧多布湿原についての講話を頂き、浜中町の自然環境の現状・特徴について知識を深めた。また、野外観察として涙岬と琵琶瀬展望台の写真を撮影し、浜中町の景観の美しさを体験することができた。

7月 郷土資料館からの挑戦状

浜中町総合文化センターの郷土資料展示室を訪ね、展示物や資料に関する問題に答えることで、浜中町の歴史や文化について知識をより深めることができた。

8～9月 浜中町の漁業について

浜中町教育委員会が実施している出前講座を活用し、浜中町漁業組合の方々をお招きし、浜中町の漁業の現状や、今後の展望について講話を頂いた。その後、事後学習として浜中町の漁業に関わる課題について互いに共有し、浜中町の漁業の展望について生徒の目線で考察した。

10～12月 浜中町の酪農について

酪農分野についても出前講座を活用し、浜中町役場の農林課農業振興係の澤田修一様と柳瀬篤様をお招きし、酪農の現状や現場の仕事内容について講話を頂き、酪農についての知識を深めた。また、MO-TTOかせて(中山間活性化施設)にて浜中町の特産品を利用したピザ・アイスクリーム作りを体験し、特産品である乳製品や肉類などを自分たちで調理・食事することにより、浜中町の特産品の質の高さを実感し資源活用の方法を考察することができた。

1～2月 浜中町の課題の現状について

1年間の学習のまとめとして、浜中町の課題として「少子高齢化」「店舗数の減少」「人口減少」「産業の後継者不足」を挙げ、それぞれの現状についてまとめ発表を行った。



2年次 【浜中を調べる】

2年次は、3年次に控えている浜中学報告会に向けて、情報を適切に判断・処理し、他者に分かりやすく伝える方法や、情報を比較し考察する力など、プレゼンをするにあたり必要なスキルを身につけるための活動を実施した。新型コロナウイルス感染症流行により外部での実習等は実施できなかったが、見学旅行において浜中町の魅力を発信するための活動を実施した。

4～5月 プレゼンテーションスキル「知らせる」

プレゼンテーションの「知らせる」に重点を置き、「自分の出生エピソード」について情報を的確に分かりやすく伝える練習を行った。伝える内容や態度、聞きやすさ、時間の使い方などを互いに評価し、他者に分かりやすく伝えるための内容構成、話し方や目線などを学ぶことができた。



6～7月 プレゼンテーションスキル「魅力を伝える」

プレゼンテーションの「魅力を伝える」に重点を置き、「自分の好きな作品」について他者に作品の内容や魅力などを紹介した。作品の内容を知らない人に、作品の情景をイメージさせたり、作品から感じることを伝える方法を身に付けた。



8～9月 プレゼンテーションスキル「比較と考察」

プレゼンテーションの「比較と考察」に重点を置き、「おすすめの商品」について同じような商品を比較することにより伝えたい事・物をよりアピールする方法を身に付けた。発表の構成として発表内容の動機・背景、商品の概要などもまとめることにより、報告会を想定した発表練習を行った。また、8月には、1年次でまとめた浜中町の課題の現状について3年生と発表交流を行い、改めてプレゼンテーションスキルで身に付けたことを実践した。



10～2月 見学旅行（震災学習・浜中町 PR 活動）、調査実習

11月の見学旅行は東北地方で行われ、東日本大震災で影響を受けた宮城県石巻市で被災した際の状況や復興への取り組みなどを語り部の方からお話を頂き、沿岸地域に住んでいる私たちも震災についての備えの重要性を改めて学ぶことができた。また、見学旅行でお世話になった宿泊先等に浜中学で作成した浜中町PRのチラシを配布させて頂き、浜中町の魅力を発信する活動として取り組んだ。



12月からは、プレゼンに関するスキルを身につけた後、調査実習として実際にテーマを設定しアンケートを作成・集計・処理・考察することにより、正しい調査方法や情報を適切に処理する方法を身に付けることができた。

あなたに届けたい 浜中町

皆さん、こんにちは！私たちは北海道南茅渚高等学校の2年生です。見学旅行を利用して私たち4人が住んでいる浜中町についてのチラシを届けたいと思っています。少しでも浜中町を知って、興味をもってもらえたらうれしいです。

浜中町とは

浜中町は北海道の東部に位置する人口約6千人の町です。霧多布温泉をはじめとする豊かな自然があり、第一次産業が盛んな町です。昆布をはじめとした水産物とハーゲンダッツアイスクリームやカルピス北海道の原料となる生乳を生み出す酪農家も盛んです。

さらに、浜中町はアニメで有名な『ゆるゆた』の製作会社であるモンキー・パンチ先生の故郷でもあり、町のみんなに『ゆるゆた』のキャラクターが展示されています。

～特産物～

浜中町の特産物には「**天然昆布**」や「**霧多布牛乳**」があります。浜中町の昆布は、他の地域と比べて天然昆布を育成する産地として無敵な産地です。なんと「**天然昆布**」の産地1位を争っています。決して浜中町は天然昆布の産地といえます。

天然昆布だけを使用し、最高級の精糖2つである「**霧多布アイスクリーム**」は天然2つよりも濃厚な甘さで最高級です。なんと「**霧多布アイスクリーム**」の産地1位を争っています！

浜中町でとれる牛乳の中でもカマン牛乳は、**乳脂肪分が高い**こと、ほかの牛乳よりも乳脂肪分が高く、とても濃厚な飲み口です。さらに、この牛乳はみなさんご存知の「**カルピス**」の原料にも使われています。気になる方は、東茅渚でもお問い合わせいただけます。

～学校紹介～

私たちの通っている南茅渚高等学校は、「浜中町」という浜中町歴史・自然・文化などを学ぶ授業があります。この授業は、1年生では、浜中町の歴史を学んだ「**浜中町歴史**」や、浜中町の産業について知る「**農業・酪農実習**」など、2年生では「**プレゼンテーションスキル**」を学び、3年生では「**浜中町報告会**」という自分たちで浜中町の課題について発表・発表する行事があります。3年生は「**課題解決能力**」や「**発表力**」を身につけていきます。

北海道南茅渚高等学校

〒089-1627
北海道南茅渚町中町新築2丁目41番地
TEL: 0153-62-3224
FAX: 0153-62-3226
Eメール: k.tsuchi@educ03.chiba.or.jp
HPアドレス:
<https://www.town-hamamatsuka.jp/visitpage.html>

3年次 【浜中を広める】

3年次は「浜中町の発展」を最終目標とし、「漁業」「自然」「商業・公共施設」「酪農」「観光」の5つの班に分かれて課題を設定し、解決に向けて校内や外部への調査活動を積極的に行い、提言をまとめ、報告会で発表を行った。

4～9月 調査活動

10月に控えた浜中学報告会に向けて、浜中学報告会での全員の最終目標を設定した後、分野の設定や班員の振り分けを実施。さらに3つのゼミに分かれて調査活動を進めていった。校内の生徒や保護者に向けてのアンケートに加え、外部への取材も実施し提言内容を深めていった。

自然班は本校の公務補である田村正雄様への取材を実施し、湿原センターで働いてきた経験から浜中町の自然環境の現状や課題を伺い、浜中町のゴミ問題の解決に向けて情報を収集した。商業・公共施設班と観光班は実際に浜中町役場に訪問し取材を行った。商業・公共施設班は浜中町役場企画財政課の竹花直樹様への取材を行い、企画財政課での活動内容や地域復興について意見を交わし、魅力ある商業・公共施設の提案に向けてヒントを得た。観光班は浜中町役場の地域おこし協力隊として活動する小山勇太郎様に取材を行い、東京出身の小山様から見た浜名町の印象や観光面での課題についてお話を頂き、外からの目線に立つ重要性を発見した。



■令和3年度 『浜中学』 成果報告会 令和3年10月30日(土)

本校が実施している国内環境、国内産業、海外交流の各種視察研修の報告と併せて、3年生が3年間の浜中学の成果報告を実施し、今回で7回目となる。

今年度は、「浜中町をより住みやすい、魅力的な町にするために」をテーマとし、「漁業班」「自然班」「商業・公共施設班」「酪農班」「観光班」の5つの班に分かれ、高校生の視点から浜中町の持つ魅力や課題について考察し、まとめたことを報告した。

【1】漁業班：『プロジェクトK～昆布漁の魅力伝えよう～』

○メンバー

石塚 大希 種市 美希 野間 星莉那 前田 啓伍

○発表の概要

浜中町の重要な産業である「昆布漁」に着目し、後継者不足等の課題があると仮説を立て、テーマを設定した。班として調査活動を進めていく中で、昆布漁へのイメージ改善の必要性を強く感じた。

メンバーも実際に昆布漁をしており、自身で感じた苦労や課題、昆布漁で得られる達成感等を自分の言葉で伝えるとともに、昆布漁誘致ポスターも自身で写真撮影・作成し、来場者へ配布した。

SNSでの発信やポスター作成、ルパンフェスティバルなどの地域イベントでの昆布無料配布などを通し、浜中町の昆布漁の持つ魅力を町内外へ発信することで、イメージ改善に繋がり、後継者不足解消への一助となると提案した。



【2】自然班：『浜中町の自然と未来を守る』

○メンバー

岡田 桃青 北館 耀太 福澤 海咲 渡邊 由愛神

○発表の概要

浜中町の豊かな自然環境を維持するために必要なことを、取材やアンケート活動などを通して調査し、考察した。

深刻化する「ゴミ問題」の解消と、浜中町民の環境保全意識を高めていくことが最重要課題であると捉え、町内に住む学生を対象として、浜中町の持つ魅力を体感しながらゴミ拾いをする活動である「Assemble “G”」を提案し、提言とした。

Assemble “G”

- ・対象：町内に住む学生
- ・期間：3ヶ月に1度開催
- ・清掃エリア：「海岸沿いエリア」「湿原エリア」「町中エリア」の3つに分かれる。
- ・体験活動：「海岸沿いエリア」⇒ゴミ拾い終了後の釣り体験
「湿原エリア」⇒浜中町特有の動植物の観察
「町中エリア」⇒終了後に飲食店で浜中町の食材を堪能



【3】商業・公共施設班：『浜中町密化計画！』

○メンバー

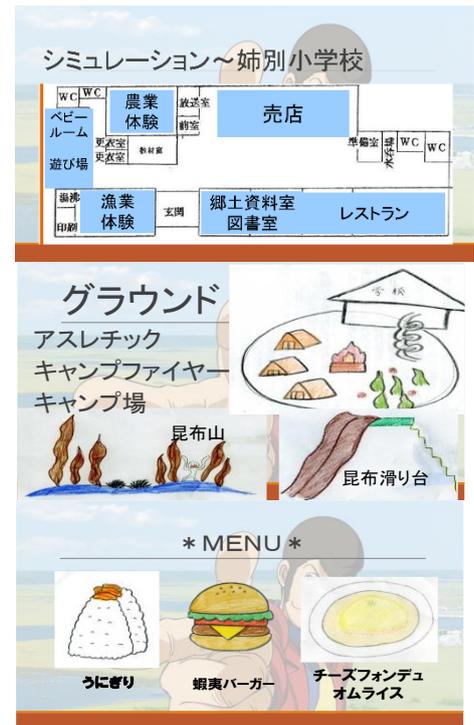
上原 雅偉 川村 梨乃 山平 大輔 湯浅 真幸

○発表の概要

人口減少の原因とその対策を多面的に思索していく中で、町内の廃校を利用して子どもから大人まで楽しめる道の駅を建設することで、町の活性化を図ることが可能であると考えた。

生徒考案の道の駅では、浜中町で提供される学校給食や町産の食材を楽しめるレストラン、特産物やルパングッズを購入できる売店のほか、子ども向けの遊び場が充実した校庭、農業及び漁業体験ツアーイベントが毎日開催されるなど、浜中町の魅力を幅広く堪能できる施設となっている。

子育て環境の充実や若者の街離れ対策、観光客や移住者の増加などの効果が期待されるため、浜中町内における公共・商業施設の充実は重要であると結論づけた。



【4】酪農班：『酪農の魅力』

○メンバー

嶋野 秀星 森下 歩 山村 千尋 渡辺 さくら

○発表の概要

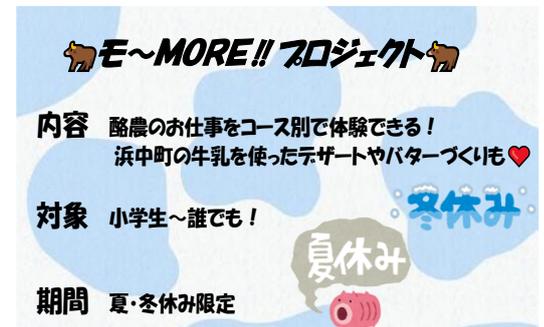
浜中町内における酪農就業者減少に着目し、アンケート調査の結果から酪農業へのイメージ改善に課題を見出した。

酪農のもつ魅力を広く伝えるために、酪農業の体験をニーズに合わせた「お手軽コース」「本格コース」から選択できる「モ～MORE!!プロジェクト」を提案した。

モ～MORE!!プロジェクト

お手軽コース：子牛へのミルクやりや牛舎掃除、搾乳やスイーツ作りなどを体験できる。夏限定で野草取り、冬限定で雪山滑り台の体験も可。手軽な酪農業体験で楽しさを実感することができ、命の大切さや食物への感謝など、教育的効果も望める。

本格コース：一泊二日で、実際に酪農家としての生活を体験できる。体験終了後は研修牧場への参加も可能となるなど、新規就農を考える方への充実した支援も特長のひとつ。



○コース紹介○

お手軽コース⇒簡単な仕事だけを体験！魅力を知ろう！
仕事体験後にはおやつ作り体験も♡
(体験人数目安4～6人、大体2～4時間)

本格コース⇒泊まり込みの1泊2日で本格的な酪農体験！
長期休暇の自由研究におすすめ！♡
(体験人数目安3～4人)

【5】観光班：『知名度 UP！プロジェクト』

○メンバー

入江 晴紀 瓜田 咲良 出口 昭大 中田 明日香
新岡 慎之介

○発表の概要

浜中町地域おこし協力隊の小山氏へのインタビューを通し、観光地として浜中町の知名度を高めるために、「ルパンホテル」の建設や、町内に実存するルパン仮想店舗の常時営業の方法を考え、提案した。

ホテル内は、各階でキャラクターのイメージに合わせた内装となっている。宿泊者は限定ルパングッズや特産品などを購入可能。食事も、浜中町産の食材にこだわった料理を提供する。

また、浜中町の名物イベントであるルパンフェスティバルと連携し、来場者にはホテルの宿泊割引券配布や、イベント会場とホテルで謎解きゲームの開催などを発案した。

仮想店舗では、昼と夜で営業形態を変えて常時営業することで、ファンが来町する機会が増え、新たな観光資源として活用できると提案した。



① ルパンたちをモチーフにした内装



仮想店舗のフル活用



霧多布高生が地域活性化策

3年生「浜中学」報告会

【浜中】霧多布高（石谷正校長、生徒66人）は特色ある郷土学習「浜中学」の報告会を町総合文化センターで開き、3年生21人が松本博町長や町議を前に、漁業や酪農、観光などをテーマに課題を探り、改善策を提案した。（山村晋）

浜中学は開設9年目。生 学び、課題解決能力を磨く。徒は1年生から町の特色を 報告会はその集大成で、10



「浜中学」の成果を発表する霧多布高3年生

コンブ漁の魅力発信／廃校を道の駅に

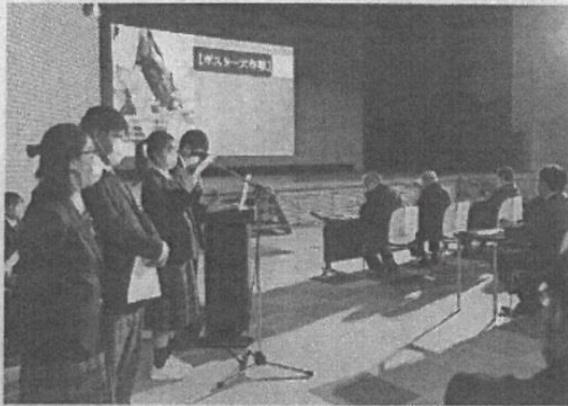
月30日に開催。3年生は5班に分かれ、テーマ別に発表した。

後継者不足のコンブ漁の課題を探った「漁業」については、インターネットやポスターによる情報発信に力を入れることで、「イメージを改善して魅力を伝えよう」と提案。アミューズメント開設を考察した「公共施設・商業施設」は、廃校を道の駅として活用し、特産品の販売や1次産業体験ツアーによる産業振興や人口減対策を図ろうと訴えた。このほか「自然」「酪農」「観光」についても提案があった。

また、夏休み中の視察研修についても報告があり、3年生は鹿児島県屋久島の自然体験ツアーや、愛知県産産振興などの先進事例を写真を交えながら紹介し、地域の活性化に生かせるよう力説した。松本町長は「コロナ下でよくここまでできた。こうした提案を実現する人材になってほしい」と講評した。

『北海道新聞』
(令和3年11月10日掲載)
※掲載許諾取得済み

環境保全と地域課題指摘 霧多布高 研修と「浜中学」報告



視察やさまざまな調査の成果を発表した報告会

【浜中】霧多布高校（石谷正校長、生徒66人）の各種視察研修と学校設定科目「浜中学」の報告会が町総合文化センターで開かれ、3年生21人が3年間の成果を発表した。10月30日に実施。

視察研修は今年度、国内環境が鹿児島県屋久島、国

内産業が愛知県名古屋市内など、海外交流は福岡県の英語研修施設「ブリティッシュユヒルス」で行った。このうち屋久島では、環境保全の取り組みを学んだほか、カヤックなどエコツーリズムを体験し、浜中でも実現可能と紹介した。

浜中学は「漁業」「自然

など5班が発表。漁業班は町のコンブ漁について深刻な後継者不足を指摘。原因に少子高齢化と早朝の出漁、重労働のコンブ干し作業などを挙げ、対策にはコンブの栄養価や料理の紹介、漁の様子をSNSやオリジナルポスターなどで発信し、親しみを持ってほしいと呼び掛けた。

自然班は体験観光が盛んな半面、道路脇のごみが多いとして町民の意識改革が必要と強調。町内の児童生徒を対象に定期的なごみ拾いに釣りや散策など自然体験を組み合わせ、楽しみながら行う保全活動を提案した。（河辺由記子）

■あす地域食堂開設 【標茶】NPO法人ウエルフェア標茶は13日、旭町の「くるく

『釧路新聞』
(令和3年11月12日掲載)
※掲載許諾取得済み

【資料2】『浜中学』報告会 スライド

① 漁業班

プロジェクトK

～昆布漁の魅力を伝えよう！！～

石塚 前田 種市 野間

アンケート結果～保護者編～から

- 大変
- 朝が早い
- 自分の子供に継がせたくない

半数以上！！

昆布漁と浜中町昆布の魅力

《昆布漁》	《浜中町昆布》
朝日がきれい！ 採った分だけ達成感がある！ 自分の努力次第で収入が増える！	おいしい！ 様々な料理に使える！ 健康的！

テーマ設定の理由

・浜中町の主な産業である昆布漁の魅力伝えることが後継者不足の対策の1つになると考えたから。

アンケート調査～生徒編～

昆布漁をやってみたいか

はい	13%
いいえ	87%

【SNSで昆布漁を広げよう大作戦】

どんな大作戦？

仮説

力仕事 づらい
きたない

→ 衰退

アンケート調査～生徒編～

どんなイメージ？

大変	60%
朝早い	20%
つらい	17%
その他	3%

【SNSで昆布漁を広げよう大作戦】

魅力が伝わる

アンケート結果～保護者編～

昆布漁を行っているか

はい	37%
いいえ	63%

アンケート調査～生徒編～から

親が昆布漁をしている背中を見て・・・

- ・大変
- ・朝が早い
- ・つらいなどのイメージ

→ 昆布漁をやりたくない！！

【ポスター大作戦】

まげー！ かつこい！！

アンケート結果～保護者編～

どんなイメージ？

大変	63%
朝早い	23%
体力勝負	10%
その他	4%

アンケート調査～保護者・生徒編～

後継者不足の原因

都会への憧れ	26%
魅力がない	24%
生活が不安	21%
昆布が取れない	15%
大変	8%
少子高齢化	6%

ポスター大作戦

《掲示場所》
町内
浜中町役場、ゆうゆ、コンビニ、文化センター

町外
釧路市、札幌、道外など

アンケート結果～保護者編～

子供に継がせたいか

はい	29%
いいえ	71%

アンケート調査～保護者・生徒編～から

経済が安定しない

少子高齢化 後継者不足の増加

【昆布のおいしさ知ってもらおう大作戦】

昆布を 無料配布！

知名度UP ↓

アンケート結果～保護者編～

昆布漁を始めたきっかけ

家業継承	86%
結婚	10%
かつこいと思った	4%

昆布漁のイメージが悪い、、、

このままではだめだ、、、
イメージを改善しなければ、、、

考察・まとめ

- ◎後継者不足の原因・・・
- ➡ 少子高齢化、昆布漁のイメージ悪い
- ◎改善策・・・
- ➡ ポスター、SNSで発信、イベントで昆布を味わってもら
- ◎小、中、高校生に向けた出前授業を必ず開催してもらう。

② 自然班

自然班

浜中町の自然と未来を守る

岡田・北館・福澤・渡邊

自然班

自然環境の現状(改善点)

地球温暖化
森林伐採
大気汚染
不法投棄

自然班

考察

- ・ポイ捨ての状況を見る限り、町の人が捨てている可能性が高い。
- ・生徒よりも、保護者のほうが、問題に対する意識が高い。
- ・全体的に、地域住民のゴミに対する関心が低い。

自然班

目次

- 1 調査をした理由
- 2 浜中町の環境問題の現状
- 3 ポイ捨てによる影響
- 4 アンケート結果
- 5 考察
- 6 提案
- 7 まとめ

自然班

ポイ捨てによる影響

プラスチックごみが海に流れてしまう
→ 魚が食べてしまう

自然班

Assemble "G"

自然班

調査をした理由

浜中町の自然環境の現状から良い点・問題点を見つけ、これからの浜中町の自然維持について考えるため

自然班

そのプラスチックを食べてしまった魚を人がたべてしまう

自然班

Assemble "G"

＜目的＞ 浜中町をきれいな町にする！！
＜対象＞ 町内の学生
＜期間＞ 1年間(3ヶ月に1回)

自然班

自然環境の現状(良い点)

ナショナルトラストとは？
みんなで資金や力を出し合って貴重な自然や文化遺産を残していく活動。

- 1 民有地の買収
- 2 動植物調査や湿原の復元を行う

自然班

生ごみのポイ捨てによりクマの出没が年々多くなっている！

自然班

海岸 湿原 町中

釣り体験 湿原散策 飲食店

自然班

自然環境の現状(良い点)

乗馬体験 無人島探索
バードガイド

自然班

たばこのポイ捨てによって山火事になる恐れがある！

自然班

取り組みによって・・・

交流できる SNS
参加賞もらえる

自然班

浜中学での自然学習

鵜多布湿原散策
浜岬、琵琶瀬展望台見学

自然班

道路付近でのポイ捨てが多い

町民の可能性が高い

自然班

END

ご清聴ありがとうございました

自然班

鵜多布岬 ドライクウェー
アサ子の岬 ハマナスロード

自然班

アンケート結果

環境維持のために心がけていることがあるか

保護者	生徒
はい 26%	はい 34%
いいえ 74%	いいえ 66%

③ 商業・公共施設班

浜中町密化計画！

上原善徳 川村深乃 山平大輔 湯浅真幸

- ・浜中には**廃校になった学校**が**たくさん**ある
- ・せっきくの**施設を有効に**使いたい

ツアー

- 体験ツアー
 - ・漁業・農業体験
 - ・乗馬体験
- 学習ツアー
 - ・歴史を見る
 - ・産業を見る

人口減少への対策

仕事づくり
子育て環境の充実

シミュレーション～姉別小学校

漁業体験

- ・魚釣り体験
- ・漁道具展示
- ・オリジナル昆布作り体験

公共・商業施設といえば、、、

アミューズメント施設??

グラウンド

昆布山 昆布滑り台

農業体験

食育プログラム

浜中町にアミューズメント施設は必要か

回答	割合
はい	60%
いいえ	40%

回答	割合
はい	59%
いいえ	41%

校内

- レストラン
- 体験(漁業・農業)
- 売店

売店

- ・乳製品
- ・海産物
- ・ルパングッズ
- ・オリジナルグッズ

シカチューシャ

反対の意見

- ・税金の無駄
- ・過疎化の中で行く人がいない
- ・子供だけでは行きにくい
- ・道の駅を優先すべき

レストラン

- ・浜中町の**学校給食**
- ・**特産物・ルパン**を使用したメニュー

効果～町内～

- ・子育て支援の充実につながる
- ・場所(廃校)の有効活用
- ・町離れ対策
- ・第一次産業に興味を持つ

賛成の意見

- ・楽しみつつ、**学べる**
- ・小さい子供が楽しめる遊具
- ・漁業農業体験
- ・頭と体を使う施設

* MENU *

- うにぎり
- 鮭魚バーガー
- チーズフォンデュ オムライス

効果～町外～

- ・町にお金が入ってくる
- ・浜中の物を知ってもらう
- ⇒移住者UP!!!

廃校利用して道の駅大作戦！

イベント～定期～

- ・春夏秋冬祭り
- ・ピンゴ大会
- ・パークゴルフ大会
- ・コンプジャーショー

まとめ

- ・浜中町が**豊か**になる方法を考えられた
- ・浜中の**魅力**を再認識
- ・浜中にとって**公共・商業施設は大切**

④ 酪農班

酪農の魅力



酪農班
嶋野 森下
山村 渡辺

まずは、.....

酪農の魅力を広めるべき！！



アンケート結果



スラリー散布



- 1 調査背景
- 2 酪農の現状
- 3 調査結果
- 4 考察
- 5 モ～MORE!!プロジェクト

♡目次♡



酪農についてのアンケート



- ・調査目的 浜中町民が酪農についてどう思っているのかを知るため
- ・調査内容 酪農の魅力、印象やイメージ
- ・調査対象 霧高生徒、その保護者

Q.酪農の大変な事は？

- 休日がないこと
- 牛の体調管理、命を扱うこと
- 体力を使う、事故が起きてしまうこと

保護者、生徒ともに **休日がない** ことが多数挙げられている。

調査背景

浜中町民が酪農に対してどう考えているかを知りたいから



アンケート結果

酪農を経験、経営をしているか (保護者)



アンケート結果

印象やイメージ (いいえ と回答した保護者)



調査背景(私たちの考え)

酪農に対して、大変そうなどとマイナスなイメージを持っていたから



アンケート結果

酪農を経験、経営をしているか (生徒)

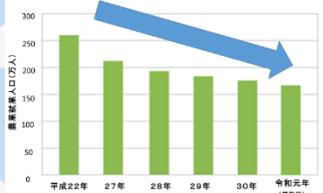


アンケート結果

印象やイメージ (いいえ と回答した生徒)



農業就業人口の推移



出典：農林水産省「農業労働力に関する統計」

Q.酪農の魅力は？(保護者回答)

- 牛に癒される♡
- 達成感がすごい
- 育てた牛の生乳を出荷できる嬉しさ
- 家族で仕事ができる
- 安定した収入を得られる 等



考察

- ・酪農に対してマイナスなイメージ 多数
- ・たくさんの魅力が伝わっていない

酪農の良さ、魅力をさらに広めることが重要！！

浜中町での酪農戸数

2003年 ～ 207戸

2019年 ～ 160戸

16年間で47戸 減少！！



Q.酪農の魅力は？(生徒回答)

- 動物、自然と触れ合える
- 命の大切さを知れる
- 浜中町の産業に貢献できる 等



保護者と同じ回答も多数！！

浜中町で できる酪農体験

～ 酪農体験研修 ～

時期 2～3日から1週間以上など、自分の都合の良い期間での体験可能！

旅費 自宅から浜中町までの往復交通費の半額助成(上限有り)

クラブの通り...

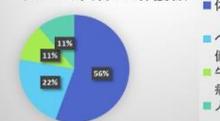
酪農就業者が年々減っていく

健康な体を保つために必要な栄養が足りなくなる！！

乳製品が食卓に出にくくなる

アンケート結果

大変な事 (はい と回答した保護者)



提案

モ～MORE!!プロジェクト

🐮モ～MORE!! プロジェクト🐮

内容 酪農のお仕事をコース別で体験できる！
浜中町の牛乳を使ったデザートやバターづくりも♡

対象 小学生～誰でも！

期間 夏・冬休み限定



ご清聴ありがとうございました♡



○コース紹介○

お手軽コース⇒簡単な仕事だけを体験！魅力を知ろう！
仕事体験後にはおやつ作り体験も♡
(体験人数目安4～6人、大体2～4時間)

本格コース⇒泊まり込みの1泊2日で本格的な酪農体験！
長期休暇の自由研究におすすめ！♡
(体験人数目安3～4人)

お手軽コース

子牛のミルクやり



牛舎掃除

牛への餌やり



お手軽コース

夏限定 野草採り



冬限定 雪山滑り台



牛乳を使ったスイーツづくり&しほりたて牛乳試飲

本格的コース



この体験をした後は、
研修牧場への参加も可能！

研修牧場…新規就農者を育成し
ていくためのトレーニング施設



🐮モ～MORE!! プロジェクト🐮の効果

実際に行うとすると、..

- 酪農の楽しさや魅力、仕事内容が分かる！
- 命の大切さや、仕事のやりがい、食べ物への感謝が伝えられる！

まとめ

酪農に対してマイナスなイメージが多い
良さや魅力を広める必要がある！！

⇒モ～MORE!! プロジェクトによって
酪農に興味を持ってもらうことで酪農の魅力を知れる！

⇒結果的に酪農就業者が増えるかも？！



⑤ 観光班

知名度UP!プロジェクト

観光班 入江晴紀 瓜田咲良
出口昭大 中田明日香
新岡慎之介

小山さんが思う浜中町の魅力

気づけない魅力

人が優しい

① ルパンたちをモチーフにした内装

知名度があると
思いますか?!

気づいた浜中町の課題

広告宣伝が弱い
交通手段が少ない
宿泊施設が少ない

② 限定グッズの販売

地域おこし協力隊
小山 勇太郎さん

東京生まれ、東京育ち

東京での生活に息苦しさをを感じる
農家をやりたい

宿泊施設の課題についてのアンケート

Q1 知っている浜中町の宿泊施設について
Q2 民宿とホテルはどちらがいいか
Q3 宿泊先にあるといい設備について

③ ルパンフォトスポット

浜中町に来てからの印象

◎広い!
◎食べ物がおいしい!
◎霧が多くて、
映画に出てきそうな町!

Q1 知っている浜中町の宿泊施設について

栗本旅館	28
より道	18
わたなべ	12
エトドリカ村	10
樟のん	8
ペンションボーチ	6
みさき	5
川村	4
かすが	3
伴梨夢	2

④ ルパンフェスティバルとの連携

割引券の配布
謎解き

小山さんが思う浜中町の魅力

自然が豊か

Q2 民宿とホテルのどちらがいいか

96%

HOTEL

■ 民宿 ■ ホテル

⑤ 浜中町産にこだわる

ホテルの食事

浜中町の特産品の美味しさを発信!

小山さんが思う浜中町の魅力

ラフな生活

Q3 宿泊先にあるといい設備について

Wi-Fi	45
温泉	35
売店	30
レストラン	25
ゲームセンター	20
カラオケ	15
遊び場	10
プール	8
アメニティー	5
バー	3

仮想店舗のフル活用

昼 カフェ・定食屋 など
夜 BAR・居酒屋 など

小山さんが思う浜中町の魅力

第一次産業

浜中町ルパンホテル計画

ご清聴
ありがとうございました

■ 『浜中学』 報告会～来場者アンケートから～

浜中学の成果発表について

◆各班の発表について、それぞれが現在の浜中町の課題そのものであり、これからの浜中を支える若い生徒の皆様としてリアルな不安であると思います。生徒さん一人一人の考えと、大人たちとの対話機会をもっともっと作っていく必要があると気づかせていただきました。◆私は（教員として）移住者。住んで40年になる。こんな素敵な町はない。霧高生をみればわかる。◆学びをどう社会に生かすか。学校の学びを地域とつなげる取り組み。生徒の皆さんと先生方の努力が感じられました。ありがとうございました。◆町の支援のもと、教育効果のある素晴らしい取り組みです。◆実際に行政や産業団体で、過去の報告に対して取り上げているのかも調査してみてもどうか。◆色々と試行してみてください。大人たちが取り組んでもなかなか上手くいかないことを学校の授業だけで成功させるのは大変ですが、そこに若者の力があります。

◆アンケートに基づいた分析から結果を、仮説から結果というプロセスはとてもよいと思います。◆自分たちの町を知る、好きになる、をより深められて、今後の宝ものになりますね。◆どの発表も想像以上に具体的に考えられていて驚きました！高校生のパワーをととても感じて、見応えのある発表でした。◆たくさんのことを体験して、そのことを自身の言葉でしっかりと説明することがよくできていて良かったと思います。引き続き、学び続けてもらいたいと思います。◆会場だけではなく広報（オンライン）が良かった。◆初めて参加させていただきましたが、大変有意義な時間をいただきました。ご報告、お疲れ様でした。◆浜中に対して、住んですばらしい、住み続けたいと願い頑張っしてほしい。◆5つのテーマのプロジェクト、行政運営の参考になると思います。◆今年残された課題など、次年度の後輩が継承されれば、一貫したテーマ研究になると思います。◆高校生らしい柔軟な考え、そして中身がしっかりしていた。◆これからも浜中を広く考えてください。◆年々レベルアップしていることに感銘を受け、さらに具体的なことへの切り込みも良かったと思います。実現可能な部分から進めていってほしいです。◆3年間の集大成としてよくまとめられた報告でした。浜中学を通して、足元の豊かさに気づき、もっと浜中を好きになり、浜中ファンを増やしてほしいと思います。

本校の教育活動について

◆若い世代の意見はともしっかりしていて参考になるし、自分の生まれ育った町を見直す良い経験になるので、今後も続けていってほしいと思います。◆多くの人に見たり聞いたりしてもらえる努力に感謝です。◆浜中学+総探（2単位）が進められることがうらやましく思います。◆高校生の時期に地元のことを調べ、考えることは将来の浜中に絶対に必要なことだと思います。これからも永くこの学習を継続いただけることを楽しみにしております。◆今後もこの「浜中学」の取り組みをしっかりと続けてください。◆ぜひとも継続して、浜中学を進化させてください。◆霧高のすばらしさ、良さに誇りを持って伝えて欲しいです。◆今後とも期待しています。

■浜中学を学んで ～3年間のまとめのレポートから～

石塚大希

僕は、3年間の浜中学を通して、グループで協力し合い一つ一つの課題をクリアし、報告会や授業での発表会でいいものを発表できるようにすることを学びました。そして、改めて浜中町を発展させるために僕たちができることは、YouTubeやSNSなどで産業を発信することで、より多くの人々が「やってみたい!」と思い、始めるきっかけを作ることだと思います。更に、今後どう活かしていくのか、それは、今後僕たちが、ネット配信をしていき、漁師や農家の人たちしか見られない裏側をネットで「こういうことだよー」など、お伝えしていけたら、全ての産業が違う形で活かされていくと思います。僕は、今後YouTubeで、1か月に一回昆布漁の生配信をしていこうと思っています。

入江晴紀

「浜中学」を通して、浜中町は自然が豊かで植物や動物、酪農や産業が盛んなことがわかりました。1年生の時には、浜中町の食べ物や特産品でピザを作るなどして普段食べることのない食材を使って料理などをしました。浜中町は自然が豊かなので、霧多布岬や琵琶瀬展望台などに足を運んで、自然と触れ合いました。普段見ることができない植物や景色は、浜中町ならではの魅力だと感じました。2年生では、浜中学報告会に向けた発表準備などをしました。発表にむけた練習や、パワーポイントを使った学習をしました。3年生の浜中学報告会では、5つの班に分かれて自分たちで課題を見つけ、それについて調べて発表をしました。私は観光班でしたので浜中町に人を呼び込むにはどうしたらいいのかなどを考えて発表しました。浜中町を盛んにするためには、季節などに合わせたイベントを開催するなどして、人を呼び込めばいいと思います。そのためには浜中町はいい町だと言える町にすることが大切なことだと思います。浜中町の産業や、酪農などに参加していくことが大切だと思います。三年間で学んだことをこれからに生かしていきたいと思いました。

上原雅偉

三年間の浜中学を通じて学んだことは、やっぱり浜中は自然がたくさんあり、住みやすい町だと思いました。1年生では、涙岬や琵琶瀬展望台に行ったりして、浜中町の広大な自然や、特産物を使用したピザづくりなどをして、浜中町の強みを知ることが出来ました。他には漁業、酪農の出前授業をしてもらい、自分の知らなかった漁業酪農の大変さや楽しさを知ることが出来ました。2年生では1年生で学んだことを生かし、浜中町について探求しさらに詳しいことまで学ぶことが出来ました。特に印象に残っていることは、発表プレゼンテーションの練習として行っていた自己紹介を同級生にすることです。長年一緒にいた同級生の名前の由来などを知ることが出来て印象に残っていました。3年生では今まで浜中学で学んできたことを発信することを頑張りました。一から自分たちが思う浜中の問題点をテーマとし課題解決に向けて考えたり、浜中町役場に行き、実際に役場の方にインタビューしたりして、多くの意見をもらい自分たちで浜中町がもっとよりよくするために考えました。この三年間で学んだことを生かし、将来にむけて頑張りたいです。

瓜田咲良

私が3年間の浜中学を学び、印象に残っていることは、浜中産の食材を使って行った「ピザ作り」です。食材を購入してもらったり、実際に料理をしたりしながら学ぶことで、浜中産の食材のすばらしさを実感することができ、とても印象に残っています。ですので、これからの浜中町を発展させるためには、浜中産の食材の魅力をより多くの人に伝えていくことが必要になってくると思います。今も多くの人に伝わっているとは思いますが、さらに多くの人に伝えることで、興味を持つ機会が増えると思います。食材そのものや食材ができる工程に興味を持ってくれた人がきっかけになり、浜中町が抱えている「後継者不足」の課題解決にも繋がっていくと思います。また、浜中学では将来に繋がる技術や知識も身に付けることができました。3年間、1クラス21人で霧多布高校の醍醐味である浜中学を学べて良かった

です。私は卒業後も浜中町に残り、浜中町民として暮らしていくことが決まっています。第一次産業に直接関わる仕事ではないですが、3年間の浜中中学で学んだことを活かして浜中町に貢献したいです。

岡田 桃青

3年間の浜中中学を通して、僕は、今まで知らなかった浜中町の様々な産業などについて、たくさんのことを学ぶことができました。3年間の中でも、「浜中町を知る」というテーマのもと学習を行った、1年生のころの授業は、特に学べることや、体験できたことが多かったと考えました。学びという面では、漁業や酪農に関する出前授業で特にたくさんのことを、知ることができました。僕の家庭は、酪農家でも漁師でもないのですが、知らないことだらけで、たくさんことを学ぶことができました。体験の面では、MO-TTO かぜででのピザづくり体験で、浜中町の特産品を使った具材の構成を考えることができただけでなく、自分たちの住んでいる町の食材の美味しさを改めて実感することができました。2年生の授業では、浜中中学発表会に向けた学習をメインとして行い、浜中町に関することというよりは、将来社会に出て活用できるような、プレゼンテーションスキルを多く学ぶことができました。3年生の授業では、1、2年生での授業で学んだことを活かしつつ、浜中中学発表会に向けたプレゼンテーション制作に取り組みました。家庭の事情により、報告会自体には参加できませんでしたが、自分としては満足のいく発表内容だったと思います。

川村 梨乃

一年生の時に印象に残っていることは、MO-TTO かぜでピザづくりをしたことや、浜中町の絶景を見に行ったことです。この町に住んでいても実際に行ったことがないところに行くことで改めて浜中町の魅力に気付きました。そして、文化センターの郷土資料館へ行き浜中町の歴史に触れとても勉強になりました。2年生の時には浜中町の課題発見を通して、現状について各班と交流を深めることができました。修学旅行では、震災学習を通して復興状況や当時の様子を知り、とても勉強になりました。3年生になってからは報告会に向けての準備を開始しました。私の班は公共・

商業施設班だったので、班のメンバーと意見を出し合いながら、生徒や保護者にも協力してもらいアンケートをとったり、役場に行って浜中町の課題、対策を聞いたりして、どうしたらもっと浜中町を活性化できるのかを考えました。高齢化、過疎化などを考えながら進めるのは難しかったですが、道の駅をつくるという面白い案を考えることができてよかったと思います。他の班の意見も面白くて実際にこんな風になったらいいなと思いました。そしてこの三年間を通して改めて浜中町を発展させるためにどんどん意見、提案をしていくべきだと感じました。

北館 耀太

私は、この三年間の浜中中学を通じて、実際に自分が体験してきた活動や例年の浜中中学報告会に参加してきた中で、浜中町の問題は、どの年もあまり変化なくごみの問題であったり、後継者不足であったりしてきました。しかし、今回の報告会で、浜中町の太陽光パネルについての問題であったり、環境問題になってきている赤潮、地球温暖化の問題であったり、私たちの案にはなかった環境問題が出てきたこと、普段からこの浜中町に住んでいるため、浜中町の自然や第一次産業だけが魅力だと考えていましたが、本州からこの浜中町にきて仕事をしている人には、私たちが考えていた魅力以外にもたくさんあることを学ぶことができました。

一年生の時には、自然に触れたい多くの場所に足を運び体験を多く行い、2年生では、3年生の報告会に向け発表の練習のため、自分たちで考え資料を作成、発表、改善をしていき、その経験を3年生で、浜中町と絡め報告会に向け浜中町の問題について、真剣に取り組んできました。私は、この三年間で住んでいる地域の大切さを知り、今後の浜中町の在り方、浜中町に貢献できるよう今できることを真剣に取り組んでいきたいと考えています。この浜中中学は、浜中町の魅力以外にも知らなかった浜中町の一面のみられることができた貴重な授業だと感じています。

嶋野 秀星

3年間の「浜中中学」を通して、浜中町の自然の豊かさを改めて学ぶことができました。浜中中学以外でも浜中町の自然などを見る機会はたく

さんありましたが、詳しく浜中について調べたり、体験することによって浜中町の良さを詳しく知ることができました。また、酪農や漁業、環境や観光名所などのことが分かりました。さらに、浜中町の食材を使ったピザづくりやアイスクリーム作り、湿原センターでの湿原学習などの体験をしました。浜中町だけの食材を使ったピザや浜中で取れた牛乳で作ったアイスクリームはすごくおいしかったです。このような経験をしてきて、浜中町を発展させるために私たちがすべきことは、浜中町の良さを知らうためのPR活動だと思います。浜中町は今、観光客が少ないのが問題だと思います。観光客を増やすためにはまずPRをしていくことが大切だと思います。そして、浜中町に観光客が来たら、浜中町にはいろいろなことを体験できる場所がたくさんあるので、そこからSNSなどでのクチコミを増やせば、いろいろな人がその体験をしてみたいと思い、浜中町に来てくれると思うので、そこから観光客がもっと増えていくと思います。

種市美希

私が浜中学を通して学んだことは、まず1番に、浜中町のことをより詳しく知れたことだと思います。浜中町の漁業や酪農のことについて、出前授業や調べ学習を繰り返し、勉強になりました。また、実際に見て触れる貴重な体験もできました。3年生では、集大成として浜中町民や来賓の方々を招き、これからの浜中町をどう良くしていくかなどを伝えることができました。パワーポイントでは、あまり文字を入れると見づらくなり背景の写真と同化、見づらくなならないような工夫をこなすこと、また文字を入れない分、イラストを入れて見やすくするなど、自分たちでは気づけないことがたくさんありました。原稿では、ただ思ったことをつづるだけでなく、それをより詳しく説明したりなど言葉選びがたくさんで、大変なこともありましたが、これらの経験が3年生で行った報告会に生かすことができたので、良かったです。印象に残っていることは、1年生で行ったピザづくりです。皆とどんな材料を組み合わせ、作るか悩んでおいしいピザを作ることができたからです。また機会があったら作ってみたいです。改めて、浜中町を発展させるためにすべきことは、皆が個人の意識を持つ事だと思います。浜

中町の自然を守るためにはごみのポイ捨てをしない、みんながやっているからといって、していいことと悪いことがあるので、そこをきちんと守っていくのが一歩だと思います。浜中学で学んだことを、ぜひ今後に生かしていきたいです。

出口昭大

僕が浜中学三年間で学んだことは、プレゼンテーションの方法と浜中についてより深く知れたことです。プレゼンテーションをするにはまず、まず浜中の問題点を考えそこからインターネットや実際に市役所などに行って話し、情報を集めて仮定し、次に浜中町民や生徒がその課題についてどのようなことを考えているのか、何を求めているのかを調査し、それに基づいて深く調べ、アイデアを生み出して課題を解決する方法を学びました。そこから浜中学報告会に向けて、誰もが見やすく理解できるようにフォントや色に気を遣い、図やグラフを用いて調査結果を見やすくしたりしました。特に自分が見えやすくて、他の人がその色が見えづらかったりして色々考えさせられました。

また、報告会の観光班からでた、浜中町ルパン計画は実際にやってほしいと思いました。浜中町にホテルを建てる計画はできなくても、次元のバーなどの店は常時開店してほしいと思いました。沢山の人がきて浜中が活性化されると思うので、浜中町は是非前向きに検討していただきたいと思いました。またこの報告会に向けて調べていくうちに、浜中のことを沢山知れるのもいいと思いました。浜中の観光名所などに行ったり、浜中の特産品でピザを作りと、ためになりました。

中田明日香

私が浜中学を学んだこの3年間で勉強になったことは、より良い発表をするためのプレゼンテーションの仕方です。2年生の浜中学の授業では、年間に何度もパワーポイントを作って発表することを行い、先輩や周りの人のいいところを吸収して、自分自身で成長ができたと思います。浜中学以外の授業でパワーポイントを使ったプレゼンテーションをする機会があまりなかったので、とてもためになりました。また、印象に残っている活動としては、「MO-TTOかせて」で行ったピザとアイスクリーム作りです。各班でど

んなピザにするかなどを話し合っ、自分たちで作ったのがとても印象に残っています。あの時に食べた味は本当に美味しく、改めて浜中町の食材のおいしさを知ることが出来ました。もし、また機会があればやりたいです。また、3年生で報告会にむけての学習では、学生の私たちだからこそその柔軟な発想で面白い提案ができたと思います。各班それぞれがとても面白い提案で、かつきちんと様々な面から考えられているなど思いました。自分たちで考えるだけでなく、アンケートやインタビューなどでの調査活動も行い、とても貴重な学習をしたと思います。

新岡 慎之介

私は浜中学で多くのことを学びました。浜中町の自然をはじめ、歴史、食べ物、地域の取り組みなどこの町ならではの良さを改めて実感しました。その中でも特に印象に残っているものがいくつかあります。1年生の時では、浜中町総合文化センターで町の歴史や自然について学んだことが印象に残っています。私は幼いころから霧多布湿原センターの自然と触れ合う活動に参加し、自分から自然について学んできましたが、自然の中でも津波などの自然災害については深く知りませんでした。また、歴史についても知らないことが多かったので、この授業の時に深く学び、自分の知識に上乘せできたので貴重な時間だったと思います。2年生の時では、浜中町を町外へ広めるときに必要な「プレゼンテーションスキル」について1年間学んだことです。1年生の時には別の授業でプレゼンテーションについて学びましたが、2年生の浜中学では、より効果的な方法でスライドや文章を作ったり、アンケートを取り、集計してより正確な情報を用いたりしたので、試行錯誤することが多く大変でした。ですが、このスキルについて学んでいたことにより、3年生で行った浜中学報告会の準備ではスムーズに作業をすることができ、自分たちの考えをしっかりと報告することができました。最後に私はこの浜中学は今後も続けていくべきだと強く思っています。3年間継続して行われる授業なので、学んできた知識や経験などを活かせる場面が多くあります。さらに、浜中学報告会という町民の皆様にも見ていただくことのできる行事もあり、自分た

ちの生まれ育った浜中町についてより深く、より新しい発想を生み出すことができる授業だと思います。

野間 星莉那

3年間の「浜中学」を通して、印象に残っていることは2つあります。1つ目は、1年生のころ「MOTTOかぜて」さんでピザやアイスづくりをしたことです。そこでは、自分たちで考えたオリジナルピザ作りをしました。私の班では、2枚ピザを作りました。1枚目は浜中ビーフやチーズ、昆布などを入れて作りました。2枚目はねるねるねと生クリームを使って、ピザを作りました。1枚目のピザは安定した味で美味しく作ることができました。2枚目のピザは、生クリームに砂糖を入れるのを忘れてしまいました。ねるねるねが甘すぎたのでちょうどいい感じになって意外にも美味しかったです。アイス作りのほうは材料を混ぜるだけなので、簡単でとてもおいしく作ることができました。この経験から、浜中町にはたくさんの食べ物の材料があることを知り、改めて浜中町の食べ物のおいしさを実感することができました。2つ目は、浜中十景をバスで回ったことです。涙岬、琵琶瀬展望台、霧多布湿原など様々な場所に行きました。そこではきれいな景色を見ることができ、浜中町は自然が豊かであることを改めて知ることができました。

福澤 海咲

3年間の「浜中学」を通して私が特に印象に残っていることは、18年間過ごしている浜中町でも知らなかったことがたくさんあるということです。1年生の時には実際に浜中十景巡りとして、涙岬や琵琶瀬展望台見学に行きました。他にも、霧多布岬やアゼチの岬、ハマナスロード、ドライブウェイなど、知らなかった所を知ることができました。浜中十景巡り以外にも、漁師の方などに前授業をしていただき、知らなかったことを細かく教えてもらうことができ、いろいろな視点から改めて地元である浜中町について知れる、良い機会になったと思います。次に、浜中学を通して学んだことは、浜中町にも環境問題や後継者問題など、たくさん抱えている問題があるということです。浜中学報告会に向け、インタビューした際にはポイ捨て問題について知り、私たちも関

係ないと思わず1人1人が改善に向けて意識していくことが大切だと感じることができました。そして、最終的なゴールである浜中学報告会では、班のメンバーと意見が合わなかったり、提案がまとまらなかったり大変なこともありました。最終的には納得のいく発表ができたと思うので良かったです。

前田 啓 伍

三年間の浜中学を通して学んだことは、まず一年生で浜中町の景色がきれいな場所に行き、自分も行ったことがなかったので、新たな浜中町の魅力を知ることができました。他にも、浜中町産の食品を使ってピザとアイスを作ったことで、食の面でも浜中町の魅力を知ることができました。

二年生では、主に、三年生で発表する浜中学報告会に向けて、発表の練習をたくさんしました。また、パワーポイントの作り方なども学び、プレゼンテーションスキルを高め、身につけることができました。

三年生では、浜中学報告会で発表するテーマをグループごとに決め、そのテーマについてアンケートを取り、調べ、改善策を考え、パワーポイントにまとめました。じっくりと浜中町の問題と、その改善策を考えることで、課題解決能力を身につけることができました。

改めて浜中町を発展させるために私たちがすべきことは、ああしたほうがいい、こうしてほしい、など思うことを浜中学を通して、役場の方やその関係者に具体的な改善策を考えた上で伝えることが大事だと思います。卒業して町内に残る人は、ボランティア活動や、イベントに参加したりすることが浜中町の発展につながっていくのではないかと思います。

森 下 歩

3年間の浜中学を通して私が学んだことは浜中町の魅力です。この浜中学を学ぶまでは都会に住みたいと思っていました。都会のほう移動が楽だったり、欲しいものがすぐに買いに行けたり、医療機関も何時間と移動することなく利用できるからです。しかし3年間、浜中学を学び続けた結果自分がまだ知らなかった浜中町の魅力に気づくことができました。浜中町は他の地域にない豊かな自然と澄んだ空気、何より食べ物も美味し

く、犯罪が少ないという3つの魅力がとても素晴らしいと思います。浜中町の観光資源は、豪華な建造物でも歴史的な城や遺産でもなく、自然です。自然は建造物やお城とは違い、見ても景色が変わることはありません。しかし、そこが魅力であり、人間の手が施されていない幻想的な景色を堪能することができるため、普段の生活で疲れた心も癒すことができます。その自然を保つためには、人々の力がやはり必要不可欠です。そこで浜中町の住民は互いに助け合い、自然を守っているところもこの町の魅力だと思いました。浜中学報告会など、どうしても地域の方々の協力が必要なときに浜中町の住民も方々は快く承諾して、いつも協力していただけます。地域の方々の協力があるからこそ素晴らしい魅力がこの町にはある、ということが、3年間の浜中学を通して最も感じたことでした。

山 平 大 輔

3年間の浜中学を通して学んだことは、今まで住んでいても気づくことができない浜中町の魅力や良さ、改善点を知ったことです。浜中町には豊かな自然や、漁業・酪農といった産業があります。その良さを実際に体験することが浜中学でできて、とてもいい経験になりました。その中でも、1年生の時に行ったピザづくりが印象に残っています。浜中町の食材をうまく組み合わせ、各班に分かれてオリジナルのピザを作るといった活動でしたが、とても楽しくできました。また、オリジナルの商品を作って、売り出すという商品開発に携わっているような気分になることができて、いい体験だったと思います。そのほかにも、3年生の集大成として行った浜中学報告会に向けての発表づくりで、浜中町を今後どのように活かしていきたいかを考えることができました。私の班は、商業・公共施設について、実際に役場の方や霧多布高校の生徒、保護者にアンケートを取りながら、施設についてどうしてほしいか率直な意見を聞きました。その意見をもとに自分たちで新しい施設を考え、今後の浜中町の発展には、公共施設は大事という意見に最後はまとめることができました。このように考えることができたのも、浜中学あつてのことなので、浜中学に携わることができて良かったと3年間を通して思いま

した。

山村千尋

1年生の頃は、浜中町の特産物や景色、有名になっている人や道を見たり写真を撮ったりしました。涙岬では少し雲行きが怪しかったですが、開けていてとてもきれいな植物や海を見ることができました。琵琶瀬展望台はかなり風が強く、また霧多布湿原と海を一望できる場所として知られています。1年生の後半では、ピザ・アイスづくりをしました。ピザはとても個性的な仕上がりになっていて、とても美味しかったです。浜中産のチーズやホエイ豚を多く使用しました。2年生で、見学旅行で宮城県・岩手県に行き、直接被災した地域を見てきました。まだ復興作業が続いている地域が多く、浜中町に生かせる防災や避難訓練を徹底することを学びました。避難訓練は、参加するのをためらう人が多いですが、霧多布はいつどうなるかわからないので、参加しておくことが重要だと私は思います。2年生の後半では、このことを1・3年生に発表するというのをしました。私たちが考えもしなかった意見や質問が多く次に生かそうと思いました。3年生になって、いよいよ本格的に内容を考え、皆で相談しながら頑張りました。最後の報告会では、いろいろな方々に見ていただき、無事に終えることができたと思います。

湯浅真幸

私が浜中学を3年間学んで、一番に思っていることは浜中町についてしっかりと知る機会があつてよかったなということです。私は親も浜中町外の間で父は牛の獣医をやっているものの農業についての知識はなく、漁業に至っては同じ浜中町なのにまったく知らないことばかりで、霧多布高校の浜中学を学んでいなければ自分の故郷について知らないことばかりになっていたと思うので、知ることができたのが本当によかったなと思います。浜中学では農業、漁業などについて外部講師を招待して学んだり、浜中十景巡りをしたりしてきましたが、3年生になった今も印象に残っているのは、ピザづくりです。浜中町の食材を大量に使い、入れる具材を考えると、ピザを作るときも楽しくて、おいしくてとても記憶に残っています。生地にコチュジャンを塗る案は

私が出したのですが、ちょっと辛くてでもおいしくて我ながらいい案を出したなと思っています。また、浜中学報告会も強く印象に残っています。公共・商業施設を担当し、インタビューに行ったりアンケートを取ったりして、パワーポイントを作成しました。途中で同じ班の人とこれでいいのかと悩むことも多かったです。最終的には自分たちでメニューやアスレチックを考え自分たちで絵を描いてパワーポイントに組み込み先生方にも良いと言ってもらえるほど納得のいく発表ができ、悩みながらも話し合つて決めていくことと、少しの遊び心も大切だなと感じました。

渡辺さくら

私が3年間浜中学を学んできて、改めて浜中町の魅力や課題点を知ることができました。

浜中学では、浜中町の食材を使ったピザづくり、浜中十景巡り、浜中町クイズを解いたり作ったりし、浜中町の良さを知るきっかけとなりました。また、自分たちで浜中町について調査をし、課題点、解決案も考えられたので、自分たちの町に対して興味をさらに持てたと思います。第一次産業や観光、環境問題についても改めて触れることができ、知らないことも新しい知識としてたくさん学びました。私の家では、漁業を行っており、漁業についての知識はかなりあるつもりでした。ですが、漁組の方を講師としてお話していただいた講話で、私の知らない漁業の現状などを学びました。専門的な方のお話は、とても詳しいのでたくさん知識を得ることができました。

また、浜中学を通してプレゼンテーションスキルを磨くことができました。パワーポイントの有効的な活用方法、相手へ自分の考えをしっかりと伝える能力をつけられたと思います。

また、調査活動で要となってくるアンケートの取り方も学びました。そのおかげで、実際にアンケートを取ったところかなり良い結果を得ることができました。浜中学では、浜中町に関係すること、自分の将来にも役立つことを学ばせていただけました。霧多布高校独自の科目で、他では学べない魅力があるので、これからも浜中学を継続してほしいです。

渡 邊 由愛神

私はこの浜中学でたくさんのことを学びました。入学して浜中学を初めてしたときどんな授業が始まるのかドキドキしました。まずは浜中町の自慢できるものトップ10を班で考えました。「ルパン」や「自然（湿原、空気）」、「酪農（牛）」、「漁業（かに、うに、昆布）」、「ゆうゆ」、「ハーゲンダッツ」などがあがりました。次に、浜中町の自慢できないものトップ5を班でかんがえました。「娯楽がない」や「ゴミ（ポイ捨て）」、「移動手段がない」などがあがりました。そして、浜中町のキャッチフレーズを班で考えて、「自然の宝庫」というものをあげました。ちなみに、平成22年度からスタートした第5期浜中町新しいまちづくり総合計画での将来像は「生命（いのち）支える大地と海 自然の調和」ということも教えてもらいました。これが浜中学の始まりでした。そして、ここから色々なことをやりました。浜中町のクイズをしたり、アイヌ語で浜中町の地名に由来があることを知り、酪農の方や漁業の方からお仕事の話聞かせてもらったり、涙岬や琵琶瀬遠望台で写真と撮ったり、プレゼンテーションの練習をしたり、浜中町の報告会がありました。色々なことがありましたが、私が1番楽しかったのは、浜中町の食材の使った「ピザ作り」です。班の皆と一緒に地域食材を調べて面白いピザを考えてみんなと協力して完成させ、美味しく食べたことがとても楽しかったです。（アイスも作りました。）浜中町は魅力があるところだと知ることができました。

■「浜中学」に携わって

3 学年担任 益井 康臣

「浜中学」の3年間にわたる学びを通じて、町民である生徒や教職員でも気付くことができなかつた地域の魅力や豊かさ、地域の方々の温かさに改めて気付くことができたこと、課題解決に向けて試行錯誤し突き進む能力を身に付けられたことが大きな成果だと考えております。

“地域学”が積極的に取り組まれるなか、地域創生に向けて現状の課題に対する対策を講じることとはさることながら、未来を担う子どもたちの育成こそが地域の活性化につながる基礎となることを実感しました。若者の都市移住が進んでいる状況ではありますが、若者を地元にとどめておくことよりも、地域学等の活動から地元を愛する子どもたちを育成し、他の地域へ移住から幅広い知識やノウハウを身に付け、生まれ育った町に戻りそれまでの経験を活かしてもらえるように私たち大人が環境整備していく必要があると考えます。そのために、「浜中学」含め地域と連携した活動を変わず継続し、未来へつなげていきたいと考えております。

「浜中学」は地域の方々のご支援やご協力があつてこそ成り立つ授業だと考えております。授業において講話や体験活動、実習等でご協力頂いた方々や関係各所には深くお礼申し上げます。今後も地域の方々との連携をより密にしていきながら、地元愛の溢れる人間性や地域の発展に尽力する生徒の育成に力を注いでいきたいと考えております。今度とも変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い致します。

■編集後記

浜中学教科主任 小川 亮平

コロナ禍における「新しい生活様式」が定着した昨今、インターネットを活用し、家に居ながらにして多くの情報に触れ、日々の生活を充実させるためのヒントを容易く得ることができるようになりました。便利な反面、情報を的確に取捨選択する能力や、匿名での誹謗中傷行為の頻発等、多くの課題と直面している時代になったように思います。

そんな中、生徒たちはこの「浜中学」での学習を通し、実際に多くの場所に自ら足を運び、生まれ故郷である浜中町の良さや魅力を肌で感じてきました。また、町民の方々から幅広い話題について講話をいただき、地域の発展について深く考えを巡らせ、自らの意見を発信する場を与えていただきました。この浜中学は、町民の方々のご協力の下、地域の温かさに触れながら生徒自身の価値観を広げることができる大変貴重な科目であると、このご時世において強く実感しております。

浜中学は、来年度で節目の開講10年目を迎えます。今年度は、2学年でエコツーリズム学習を題材とした「霧多布湿原デイキャンプ」を初めて実施させていただくなど、新しい試みにも取り組んでおります。今後も、町民の方々の変わらぬ温かいご支援をいただきながら、浜中学の発展に向けより一層尽力して参りたいと考えております。

浜中町の皆様や関係各位の本校へのご支援に感謝申し上げますとともに、これからも本校生徒のために更なるお力添えをいただきますようお願い申し上げます。後記とさせていただきます。

